



ネコジャら新聞

八月六日(土)、私たちは郡山市横塚にある「ベップキッズこおりやま」(郡山市元気な遊びのひろば)へ行きました。夏休み期間ということもあり、親子連れが姿が多く見られました。

「ベップキッズこおりやま」って

「ベップキッズこおりやま」とは、原発事故で屋外活動が制限された福島の子どもたちのために作られた場など豊富な遊具が取りそろえられています。生後6か月から12歳の子どもとそ



▲この日は36℃の猛暑。冷房の効いた室内では子どもたちが元気に走り回っている。(8月7日)

猫じやらしえね(こぐさ)の花言葉は遊び。子どもが施設で元気に遊んでいる様子から新聞の題字にしました。所長の伊藤ミドリさんが私たちのために六本の猫じやらしを飾って待っていてくれました。

の保護者が利用でき、郡山市が施設の維持管理をし、NPO法人郡山子育てネット

子どもたちの声がBGM

所長の伊藤ミドリさん

所長の伊藤ミドリさんは、郡山市出身。40年間保育の仕事にかかわっています。子どもたちにとって遊びは命そのものです。大人として子どもたちに何



▲子どもたちへの思いを語る伊藤さん

で遊ばない様子を見てかわいそうだと感じていたそうです。「子どもたちにとって遊びは命そのものです。大人として子どもたちに何

変わらない利用者数

利用者数の変化の表を見ると、開館後3か月が最も多くなっています。放射線の影響により屋外で遊ぶ機会が減りました。親も子も、のびのびと遊べる場所を求めていたことが分かります。翌年から

利用者の数が増え、開館後3か月が最も多くなっています。放射線の影響により屋外で遊ぶ機会が減りました。親も子も、のびのびと遊べる場所を求めていたことが分かります。翌年から

利用者数の変化

1日あたりの平均利用者数。単位は人/日。オープンは平成23年12月23日。23年度は12月から3月までの3か月間の数字。5年経っても利用者数は減少していない。放射線の心配だけでなく、子どもへの安全な遊び場として親や子どもたちが定着していることがわかる。

平成23年度	1231
平成24年度	944
平成25年度	880
平成26年度	897
平成27年度	936

久しぶりに遊んだ。

屋外の遊具

みんな輝く

5年前に来た時に、一番気に入っていた遊具は自転車です。前は放射線によって外で遊べなくなりました。とても楽しくできました。2つ目は砂場です。砂場は、幼稚園でも外遊びが禁止されていたため、砂遊びはとても楽しかったです。そして今回楽しかったのは、ボールプールや30

親の悩みも変化しています。

た。本当に子どもたちが好きなのだと思いました。子どもの健康と食と環境が福島の未来をつくるために必要です。ベップキッズでは親子で調理する姿が見られました。「ここは音楽は流れていません。子どもたちの笑い声、さけび声などにぎやかな声がBGMです」伊藤さんは私たちに優しく話しかけてくれました。館内を見学している時に臨床心理士の大上律子さんに会いました。大上さんは神戸から応援に駆けつけています。大上さんは阪神・淡路大震災での経験をもとに、親の相談にあたっています。「震災から5年たつて親の悩みは全国の他の地域と大きく変わらなくなりました。はじめは放射線のために外で遊ばせられない悩みの相談が多かったです。今は子どもへの接し方などの相談です」

私たちが編集しました。

佐藤祐樹(安積一小5年)、吉田貴宗(福大附属小6年)、面川虎太郎(須賀川二小6年)、阿久津裕也(蓬萊中3年)、佐藤里帆(相馬高2年)

